

# ぴっぴかの小学1年生からの～ サードブック「わたしのおすすめの1さつ」

北杜市図書館では、子どもたちに素敵な本と出会い、読む楽しみを知る出発点になって欲しいとの願いを含め、0歳児（ブックスタート）、2歳児（セカンドブック）、小学校就学時（サードブック）におすすめの本を紹介したり、読み聞かせなどを行っています。

## 『きよだいなきよだいな』 長谷川摂子/作 降矢なな/絵 福音館書店



こばやし だいきさん（明野小学校）  
きよだいなびんにぼくとみんなではいつてねてみたり、せいざをみてみたい。せんぶうきでとばされたり、ももたらうがとびだしてきたところがおもしろかった。

## 小学1年生が、読んだ本の感想を教えてくださいました！

### 『ソメコとオニ』 斎藤隆介/作 滝平二郎/絵 岩崎書店



たかい まさとさん（武川小学校）  
ソメコがあそんでいたなら、オニにどうくつにつれていかれた。ぼくはそのどうくつにいきたいです。それがおもしろかったです。

## 『ちいさいおうち』 ばーじにあ・りー・ばーとん/文・絵 いしいもこ/訳 岩波書店

まるも くるみさん（須玉小学校）  
わたしもまちより、いなかのほうがすきです。ぼろぼろのおうちはわたしもやだけど、あたらしくなおしてもらってよかったとおもった



しまだ つむぎさん（泉小学校）  
ちいさいおうちは、しずかになってよかったな。ぼくのうちもしずかだよ。あそびにきてね。

## 『どなかんじかなあ』 中山千夏/文 和田誠/絵 自由国民社

たなか あるとさん（高根東小学校）  
かんどうできました。とくにかんどうできたのは、なんてたくさんのおと！！というところです。



さの しょうだいさん（小淵沢小学校）  
まりちゃんのめがみえないところに、ひろくんがきてまねてみたら、いろいろなじぐざぐもようがでてきておもしろかったです。

## 『のぞく』 天野祐吉/文 後藤田三郎/写真 大杜玲子/絵 福音館書店



まつい たろうさん（長坂小学校）  
このちきゅうにこんなにあながあいているんだなあとおもいました。なんでこんなにあながあるのかな？びっくりしたよ。

## 『しゅくだい』 いもようこ/文・絵 岩崎書店



さとう いつきさん（白州小学校）  
なんでがっこうのしゅくだいがだっこなの？でも、ぼくもだっこしてもらいたくなっちゃった。だっこすきだもん。

## 司書のつぶやき **ほん、まかいな!** いふふんす きょうとうきよくのまき

レファレンスとは…日本語で言うと『参考調査』。図書館利用者の求めに応じて情報を検索・調査・そして回答を行う 我々司書が担うべき業務の一つなのである。

「せんばい！先輩ってば、せ・ん・ば・い！！ つ来ましたよ！きたんです〜レファレンスですよ〜」  
「えーい静まれ！新人！練習だと思って落ち着いて対応すればよいのだ！」  
「はい、ぼくもそう思って立ち向かっていったんですが全然わからないんです〜助けてください〜」  
「えーい、なさけない奴だ。どんな問い合わせだ？」  
「えっ・と、”いけなみりようたろう”の本を探してほしいと言われてるのですが何度検索しても全然ヒットしなくて……」  
「馬鹿もの！！それは池波正太郎か司馬遼太郎のどちらかだ！もう一回聞いてこい！」  
「はっはいっ！！」

「いいか、レファレンスの極意とはよく話を聞くことと想像力だ！頭を働かせろ！」  
「はいっ！」

「では例えばせんばい！利用者の方が思い違いでこんなタイトルを聞いてきてもすぐに何の本かわかりますか？」

「うむ、言うてみい！！」  
「まただレポート？」「旅猫リポート！」  
「レストランエスカルゴ？」「食堂かたつむり！」  
「犯罪者Xの変身？」「容疑者Xの献身！」  
「背中を蹴とばしたい？」「蹴りたい背中！」  
「うわきねこ？」

「おのれ…小悪魔！じゃなくてう・き・わねこ！」

「さ・さすがですっ せんばい！」

「それでは、別のレファレンスで やまね小学校

2年生のみちゃんからなのですが、

うちのがっこうにむかしからつたわのトイレの

ようかいのえがみたいす って

せ・せんばい？せんばい！ちよっ！

死んだふりして逃げないでください！」

「してししかばねひろうものなし、

死して屍拾うものなし・」

「くりかえさないで！！」



## 図書館へGO!!

図書館では図書はもちろん雑誌・新聞などを自由に閲覧できます。お気軽にお出かけください。

利用者カードがあれば  
北杜市8館すべての図書館共通で利用できます

本・雑誌は 合計15冊まで 22日間  
CD・DVD・VHSは 3点まで 8日間  
館内でDVDやCDなどの視聴ができます  
学習コーナーなどの利用ができます

探したい本や調べたいことなどお気軽に  
市内・県内・県外からお取り寄せもできます

館内OPAC(自動検索機)も使ってみよう！  
北杜市図書館所蔵の資料をさがせます

返却も便利になりました  
北杜市内の8館どこでも返却できます

読みたい本が貸し出し中や他の館にある時は  
各館で「予約」ができます。ネット予約も便利。  
連絡もメールか電話かを選べます。(要登録)

各館で楽しいおはなし会も開催  
イベントも要チェックです

図書館の情報は「広報ほくと」に毎月掲載。  
詳細は図書館員におたずねください。



# やまね便り

第47号

第28回国民文化祭・やまなし2013 北杜市主催事業

## 金田一春彦ことばの学校 特集

あの人に会いたい

ことばの学校副校長 田中美奈子さん



飛びだせ！図書館ボランティア  
～第2回 朗読劇団「声春」～



司書のつぶやき **ほん、まかいな!**

図書館へGO!



編集後記 「金田一春彦ことばの学校」に三浦しんさんをお迎えする数日前、映画『舟を編む』がアカデミー賞外国語映画賞の日本代表に決まったとのニュースが飛び込んできました。アカデミー賞の発表は来年の3月。長い道のりですが、楽しみに待ちたいと思います。(ま)



# あの人に 会いたい

金田一春彦ことばの学校副校長

## 田中美奈子さん (金田一春彦先生長女)



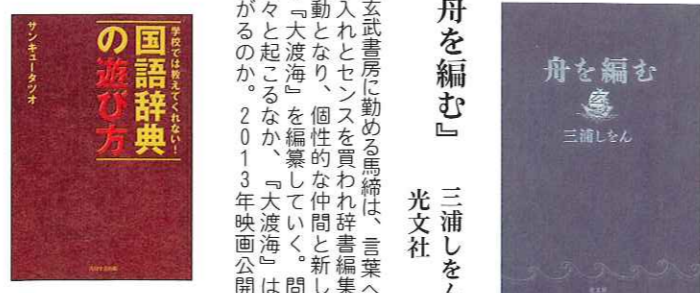
**父にとつての北杜市**  
父はすごく暑がりです。涼しい所で研究したいという事で旧大泉村に山荘をつくり毎年夏の間はこちらに来ていました。いつもそばに八ヶ岳があり、川のせせらぎがあり、小鳥の鳴き声があるこの地を大変気に入っていました。  
最期、父が亡くなったのもこちらでした。5月半ば、ちょうど夕方雨が降っていました。「若葉の緑がきれいだね」と言ったのが父の最期の言葉になりました。意識の中に映る最後の風景もこちらの風景でした。本当に父にとつてはかけがえのない場所だったと思います。  
「金田一春彦通り」が大泉にあります。父の名前を冠して、よくそ作ってくれたと思っています。通りの名前になったのだから、恥ずかしくないように姿勢よくしゃんと歩くのよと父に言っていました。いまでも通りを見ると、父の照れくさそうな顔を思い出してうれしくなります。  
私にとつてもこの地は父が亡くなるまでの数年間を一緒に過ごした思い出の地です。東京にいますとあまり父のことを思い出しません。こちらに来て八ヶ岳が見えてくると「お父さん帰ってきたよ」と思います。

**父にとつての心のふるさと、第二のふるさとという気持ちがあります。**  
**父と「ことばの学校」**  
図書館が開館して間もない頃に、父が「ことばの学校」に携わっていました。父は、自分が研究していた国語学、言語学などの研究を継いでくれるような若い人たちに研究のプラスになる資料をここで見てもらいたいという気持ちと同時に、一般の人たちにも日本語に対する興味を持つきっかけになればという思いはあったのだと思います。ここまで長く続けられたということは父もすごく喜んでいてと思います。  
**ことばの学校のテーマ「辞書」**  
父の仕事の三本柱といえれば方言、それから二つ目が琵琶や日本の古典の音楽を通じて日本の昔の言葉、あるいは昔のアクセントを知るといった研究、そして三つ目が辞書です。  
辞書というのは祖父の京助からやってきた仕事でして、父はそれを受け継ぐ形でやっておりました。  
昨年『舟を編む』という三浦しんさんの本がベストセラーになり、辞書のできる工程をこんなに面白く書いてあるおはなしです。父は面白くおはなしして、ぜひとも父の仕事の三本柱の一つである辞書をみなさんに分かりやすくお話ししたり、楽しい催しができたらなということ。14回のことばの学校のテーマを辞書ということに決めさせて頂きました。  
**ことばと真摯に向き合う**  
私が小さいとき、ちょうど父が古語辞典を作っているところでした。ひとつひとつの言葉がカードに書かれていて、それを敷き詰めて作業を

していた。その頃は、まだ下北沢にあって、採集カードのせいで布団も敷けないような状況でした。わたしたちがうっかりそれを蹴飛ばしたりすると父に「分らないくたじやないか」って怒られて、非常に大変でした。  
ひとつの項目が終わるとそのカードを片付けてよくなります。カードは何かの印刷物の裏紙を裁断したものに印刷して作っていたので、つなげるとひとつの絵になるんですね。大きなジグソーパズルみたいなものです。それを弟たちと並べて、「お魚が出来た」とか、そんな風に遊んでいたことを覚えています。  
またあるとき出版社の意向で、祖父の京助とともに監修に携わって、国語辞典の内容が非常に主観の強いものになってしまつて。そういうものを載せるという事に対して父はとて反対しました。それでもやはり父の名前や祖父の名前が欲しかった出版社の方が頼みに来た時に父がその辞書を思わずガアッって放り投げたんです。出版社の人たちもわたしもとても驚きました。でも父はやはりそういう辞書を出すことは、自分の良心にかけて許せないという思いがすごくあったんですね。普段温厚な父があんなに怒っている姿というのは、後にも先にも見たことがないです。父にとつて辞書というのはそれだけ心血を注いだのかなとそのときに思いました。  
**みなで力を作る一大イベント**  
地域の多くの方が労を惜しまず力を合わせてやっていた一大イベント。テーマに沿った内容でどうしたら興味を持ってもらえるか苦心しながら企画を考えています。  
この学校を通して日本語に親しんでもらうとともに、多くの方の苦勞している裏側を垣間見てもらえたらと思います。

『辞書を編む』 飯間浩明 著 光文社  
三省堂国語辞典の編纂者、飯間浩明が辞書作りの現場を公開！編集方針や用例採集などの具体的な方法などを知ることができる。

『舟を編む』 三浦しん 著 光文社  
玄武書房に勤める馬蹄は、言葉への思い入れとセンスを買われ辞書編集部へ異動となり、個性的な仲間と新しい辞書『大渡海』を編纂していく。問題が次々と起こるなか、『大渡海』は編みあがるのか。2013年映画公開！  
『国語辞典の遊び方』 サンキョータツオ 著 角川学芸出版  
『学校では教えてくれない！』  
「学者芸人」ことサンキョータツオが広げて深い辞書の世界を徹底ガイド。さまざまな国語辞典の個性や楽しみ方を紹介してくれる本。



# 金田一春彦ことばの学校が盛大に開催！

9月7日、高根ふれあい交流ホールにおいて国民文化祭北杜市主催事業「第14回金田一春彦ことばの学校」が盛大に開催されました。

1校時の方言川柳表彰式では、全国から応募された4500句以上の句の中から選ばれた28句が表彰されました。山口県や宮城県などからも受賞者が参加され、まさに国民文化祭にふさわしい受賞式となりました。

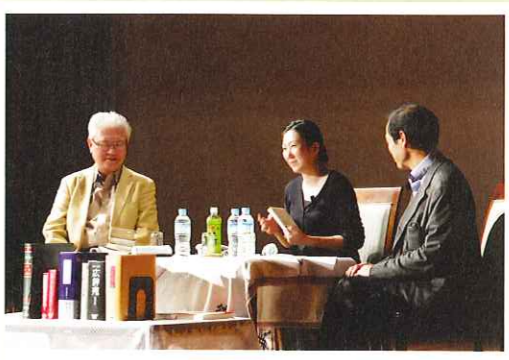
2校時は心に響く子守歌と題し、演奏や朗読をまじえ金田一春彦先生が愛した子守歌の世界を堪能しました。郷土の民謡『縁故節』では、多くの来場者が一緒に歌いだし、会場が一体となりました。

3校時は、辞書作りを描いた小説『舟を編む』で本屋大賞を受賞した直木賞作家の三浦しんさんと三省堂で辞書編集をしてきた倉島節尚さんを迎えて、辞書についてのトークショー。辞書好きという三浦さんからは、辞書との出

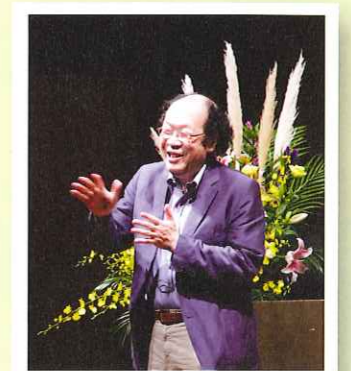
会いや小説家としての辞書の使い方などのほか、小説家になったきっかけや御自身の名前の由来などが楽しく語られました。倉島さんは、20年以上もの歳月をかけて編まれた『大辞林』の作成秘話など辞書作りの現場からの貴重なお話をされました。

4校時は、テレビなどでもおなじみの金田一秀穂先生による講演会。いつもながらのパワフルでユーモアあふれる語り口で、私たちが日常使う日本語への疑問を分かりやすく解説してくださいました。

三浦しんさんの講演は山梨県内では初めてということもあり、当日はこれまでにない盛況ぶりで400名以上の方が参加されました。参加者からは「充実した一日を過ごすことができました。来年も必ず来たいです」など喜びの声が聞かれました。



次回作などについても和やかに語った三浦しんさん



参加者からの質問に答える金田一秀穂先生

# とびだせ！ としよかんボランティア

～北杜市図書館を拠点に活動中の図書館ボランティアを紹介～  
せいしゅん  
第2回 朗読劇団「声春」

朗読劇団「声春」は金田一春彦記念図書館を拠点に活動しているボランティア団体です。活動は主に朗読CDの制作をしています。(作品は金田一図書館で所蔵しており貸出も出来ます。)夏の恒例イベント、代表の大沢博さんによる終戦特集の講演も好評です。その他にも、地元の中学生と一緒に朗読劇の発表や子供たちへのおはなし会など、さまざまな活動をしています。

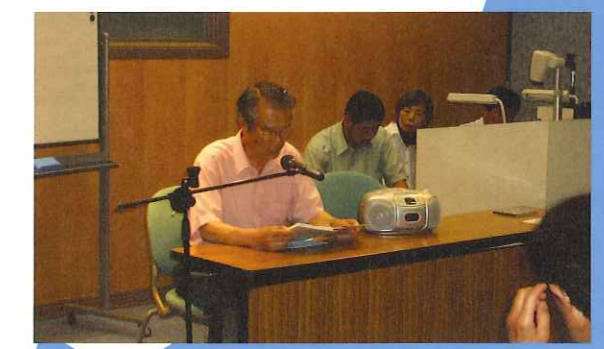


泉中の生徒さんと一緒に朗読劇をしました。

イベント報告  
「終戦特集～映像と語り～」  
8月11日(日)午後1時30分～  
金田一春彦記念図書館SVホール



今年は、歌と語りと映像で伝える戦争のテーマで、日本各地でライブを行っている山本晴美氏と松村誠氏による歌語り『万歳峠』を行った後、元特攻隊員でもある大沢博さんをお迎え講演しました。戦争体験者のことばと、歌語りとともに考えさせられる内容でした。



北杜市図書館では、ボランティアを募集しています。興味のある方はお近くの図書館までお問い合わせください。

思わず辞書を手にしたくなる本